

レーザーコンパス

「目で見るレーザー最新技術」は如何ですか

—編集担当者よりひとこと—

豊 田 浩 一*

Koichi TOYODA*

会誌の編集に関わることは、本来、編集後記などに記載するのが適当と思うが、表題に記した「目で見るレーザー最新技術」も6号を経過したことであり、ここで最近の編集委員会での討論をふまえて、日頃の所感を述べさせて頂き、今後、批判いただく参考に供したいと思う。

「レーザー研究」の発展のために考えること

編集委員会という立場で言うと、オリジナルや解説論文がコンスタントに集まらなると大変困ったことになる。とくに解説論文ということになると、自分が持っている知識や経験を普及するという奉仕精神で書いてもらわないとなかなか書けないものである。

今日、レーザー利用というものが広く一般社会に浸透してきたため、従前の量子エレクトロニクスや光エレクトロニクスという言葉に代えて光科学技術とか光産業技術というより広い概念を持つことばも一般に使われるようになった。

このような時代の環境に応じて本会誌「レーザー研究」も産業界や学問分野を横断するような広がりを持った情報交換誌を目指して行かねばならないことは当然である。このような努力目

標は、とりもなおさず知識経験の他分野への波及の重要性を認識することとなり、ここで言うところの奉仕精神を喚起することにつながれば良いと思うのである。

国際化時代への対応について

本会誌は、投稿規定に和英混載誌であることが明記されている。従って、もとより国際化時代を強く意識されていることは言うまでもない。現在、和文論文においても部分的に英文表記を採用し、少しでも言語的障壁を低くしようとしているが、もちろん十分な対応とは言えない。

一方、我国のオプトエレクトロニクスの国際的なレベルの高さを考えると、もっと英文論文が増えてもよいのではないか。またそれだけでなく、外国からの投稿を歓迎できるような方策も真剣に考えねばならない。かねてから必要性が論議されている英文の投稿規定の作成作業も急がねばと考えている。

特集号は役立っていますか

「レーザー研究」の一つの特長として、毎年最近のトピックスについて3回程度の特集号を発

*理化学研究所半導体工学研究室 (〒351-01 和光市広沢2-1)

*Riken, the Institute of Physical and Chemical Research (2-1, Hirosawa, Wako-shi, Saitama 351-01)

行している。特集号の特長は一言では言い表せないが、他の学会誌でみられる総合報告のような性格もあるが、またそれとは違って、テーマを絞って、より深い内容になっているようにも見受けられる。中には単行本にすれば良いという意見も耳にする。私が聞きおよび範囲では、会員の中でもとくに学生諸君から好評を博しているようである。レーザーのような学際的な科学技術では新たに研究開発に取り組もうという人たちにとって、特集は大いに参考になるのではないかと考える次第である。

「目で見るレーザー最新技術」は如何ですか

目で見ることによる情報量の多さについては、日常的にいろいろ経験することである。学術、技術の対象となる難解な事象であっても、一旦視覚的に捉えられれば、更にディテールを知る

きっかけになるし、また、その理解を助けるであろう。そのような経験は多い。本誌「目で見えるレーザー最新技術」欄は多分にこのような実際の価値観にもとずいて設けたものである。ご感想はいかがであろうか。

カラー写真ページの経費の問題や企業の広告ページとの関連、それに何よりも継続できるだけの記事の投稿があるかといった危惧もある。このような喧々ごうごうの討論の末、始めてみた次第である。さいわい、各所から紹介いただいた記事については、内容的にも、好評を得ているので、まずまずのスタートのようである。

以上、当面する問題点を書いたつもりであるが、結局のところ、抽象論の域を出てないのかも知れない。意のあるところを理解され、ご支援をいただければ幸いである。